

# 講師・受講生にとっての音声メディアの諸問題

信州大学農学部教授 俣 野 敏 子

## 1. はじめに

音声メディアは視覚メディアよりも想像性を刺激して、さらに多くのことを伝えられるとも云われていると聞く。本研究の目的は音声のみの放送メディアを利用して講義する事に関しては全く未経験である講師陣にとって、放送利用のラジオ公開講座に携わる場合、そこでは何が問題であり、何が求められているのかを明らかにしたいと考えて次の具体的テーマについて調査研究した。

- 1) 科目選定の意図とその成果
- 2) 科目構成のあり方に対する意図とその成果
- 3) ラジオ教材の枠割りと表現方法の研究とその成果
- 4) 読む教材・聞く教材の比較に対する研究
- 5) 学習指導の実際と有効的方法についての考察
- 6) 望ましいラジオ教材のあり方についての検討

なお、本学では従来から読む教材としてのテキストを市販の出版物としており、本年度も出版物は単独の読み物としても通用するものとの意図のもとに編集した。従って、番組の制作もそれとの関係という点を中心に検討する。

## 2. 調査研究方法

### 1) 調査方法と受講者の属性

調査はアンケート方式によった。すなわち、全国大学共通調査、信大農学独自のアンケートを2種類の3種類を併用して解析に供した（信大農学部のアンケートの概要は別に付記したとおりである）。

また、印刷テキストについては、放送公開講座の受講生ではない本学部学生約 100人から読後感を求めて検討した。

まず、受講生の調査対象集団の特性をあげておくと、抽出受講生、スクーリング出席者の何れについても明らかに女性の率が多い。さらにこれらの性別・年齢構成を見ると、図1に示す通りである。すなわち、女性は50～60才までが多いのに対して男性はさらに高年齢層が多い。これは後にも述べるように本講座のテーマによる特殊性とも考えられるが、平成2年度の全国大学の放送公開講座についても本講座に類似するようなテーマの場合は女性あるいは高年齢層が多いのに一致する。また、これを本年度の本学主催のテレビ講座の受講生と比較すると性比、年齢構成ともに明らかに異なり、地域性の問題ではない事は明瞭であろう。

また、これらの受講者の学歴をみると図3に示すように高学歴層が少なく、また、職業別みると主婦層が多い。これも平成2年度の全国調査で食、健康に関するテーマでは主婦層が多いのに一致する。

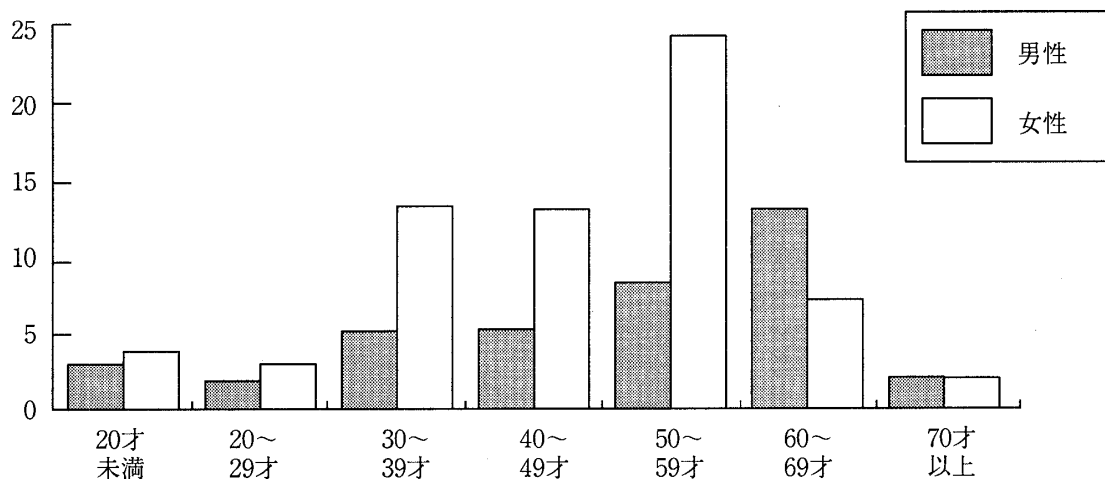


図1 受講生の性別・年齢構成

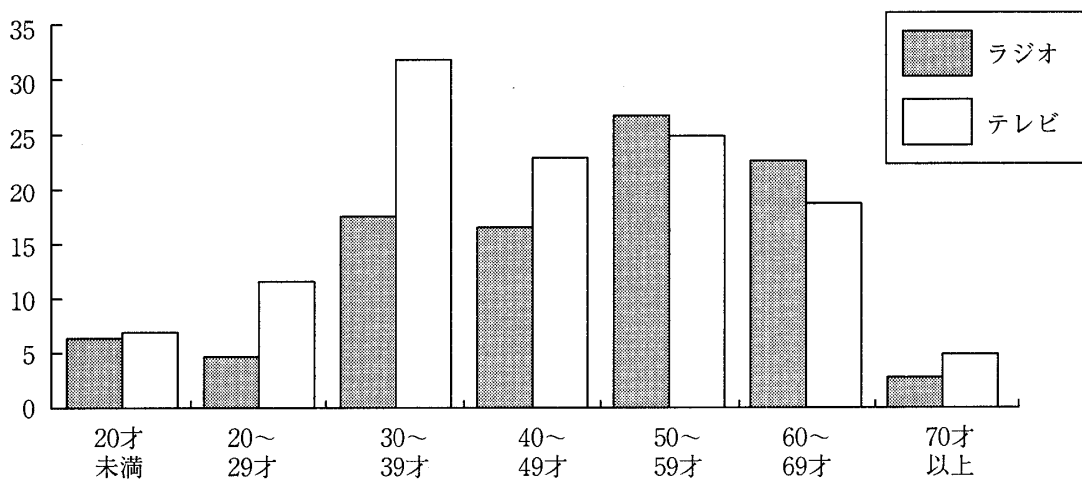


図2 受講生の年齢構成、ラジオとテレビの比較

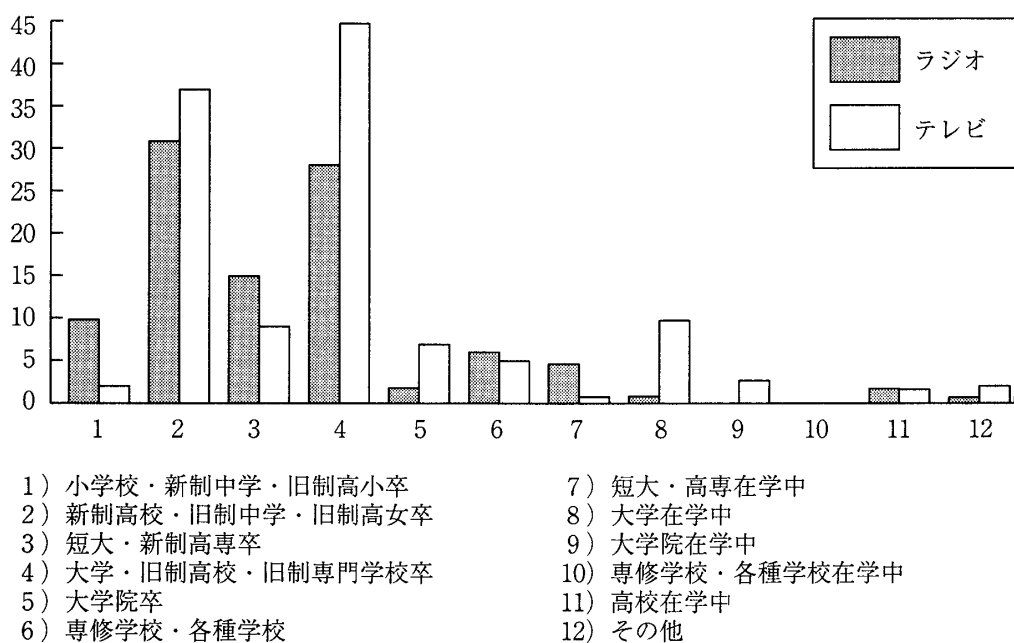


図3 受講生の学歴

以下に述べる受講者の反応は前記の対象集団からの回答についての解析検討である。なお、何れの場合も回答者の人数は約100人であったから、一見してわかりやすいようにパーセントで表示した。

## 2) 講師陣の準備概要

まず、われわれほとんど全ての講師陣にとってラジオ講座はまったく初めての経験である。従って、科目選定、科目構成、教材の枠割り、読む教材・聞く教材、学習指導など上記の諸項目について次の方法により研究して作成した。すなわち、

- (i) 講師全員に放送の制作担当者から番組作成、ラジオ教材作成に関しての注意事項について説明を受けた。

放送局の番組製作者からは一般的な注意がなされた。すなわち、アナウンサーとの対話形式のシナリオの作り方、シナリオの長さ、時間配分等である。結論としては「大学で講義をやっているから大丈夫だろう」とのことであった。

- (ii) 本学のラジオ公開講座の経験者から、大学教官がラジオ講座に参加する場合に注意すべき諸問題についての反省や参考意見を聞いた。その要点は次に示すとおりである。

- \* 各科目の講義の最初にその主題を簡単に述べ、聞き手の心に受け皿を作る必要がある。これは毎週同じ学生に講義をする場合と基本的に違う。
- \* 多くの人が7割ぐらいすでに知っている事を述べ、話し手と聞き手の共通項が興味を引き出すことに役立つ。
- \* 各回のポイントは一つにしぼり、寝る前に3つの新しい事を聞いたと感じ、翌朝一つ心に残っていれば良い程度に考えた方がよい。講義や講演会では3～4の山を作るがそれとは異なるだろう。
- \* 自分の頭の中で重要な事項を一つに絞る。表現する必要は無いが、それが受講者には伝わる。すなわち、頭の中に明確にしておく事で話題がそれに収斂するものであろう。
- \* 自分の速度で話してみて43分間のシナリオを作り、さらに1～2分の余分を書いておく必要がある。
- \* 大学教官としての面子にこだわらない事が重要で、聞き手の中に自分より高度な知識の人のいる事を意識しないようにする。むしろ、子供に話すように心がけるべきである。
- \* 大学教官はとにかく新しく勉強した事を話そうとするが、それをするるとにかく詳しくなりすぎで明快さを欠く恐れがある。
- \* 放送シナリオは印刷教材が異なる方が気楽に話せるのではなかろうか。
- \* 言葉だけでは難解なことでも最も重要なことについては、誰でも目に浮かべられるような例、すなわち、具体的に形と色を思い浮かべられるようなものを例にあげると理解され易い。
- \* スクーリングには他のメディアを用いるべきである。すなわち、スライド、OHP等視覚に訴えるものが良い。

などの諸注意を受けたが、これらは後に述べる聞く教材を作るに当たって非常に有意義であった。

### 3. 調査結果の概要と解析

#### 1) テーマ選定の意図とその成果について

この講座に取り上げた科目は講師陣の専門分野そのものではないが、各講師がそれぞれの専門分野を発展させるために必要と感じ日常的に知識の集積をしてきたものである。受講対象としては当初から主婦層を想定した。

結果は図4の受講の動機に示されるように、家庭で学習できること、日常生活に役立つことなどから主婦達に興味の深そうなテーマとしたがかなり好評であった。また面白くわかりやすいとの意見も多くみられた。

なお、図4に示すように、テーマに対する関心は受講の動機についてラジオとテレビの違いにもよく現れている。

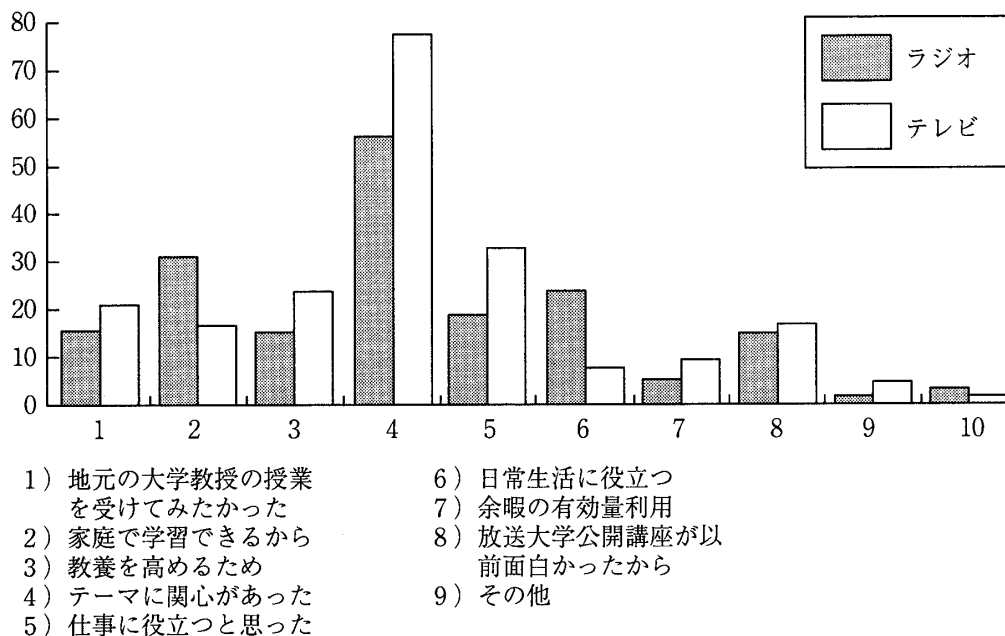


図4 受講の動機 ラジオとテレビの比較

なお、アンケートでは今後放送利用の大学公開講座を行うとすればどのようなテーマを希望するかについても設問した。図5に示すように、やはり食に関する希望者の率が多かった。これは、本講座を受講した回答者集団の特性とも考えられよう。

なお、自然科学の基礎知識を得たいとの希望が、主婦層、高年齢層にも多く認められた。この事実は2つの事が予測される。すなはち、講義の内容に自然科学の基礎知識が不足するため理解困難な部分が有ったか、あるいは自然科学の基礎知識自体に対する知的欲求の何れかであろう。この点に関しては、後述するように多くの人々が講義はわかりやすく面白かったと回答している点からして、教養あるいは生涯学習としての自然科学的知識を求めていることの現れと受け取れるべきと考えられる。

作物の栽培技術や畜産、林業技術に対する希望が少なかった事は農学部関係者として若干気になる点であるが、今回のテーマの選定と受講対象者の想定が一応妥当であった事と了解しても良からう。また、ここにあげられた希望のテーマはわれわれに可能な範囲の問題であるから

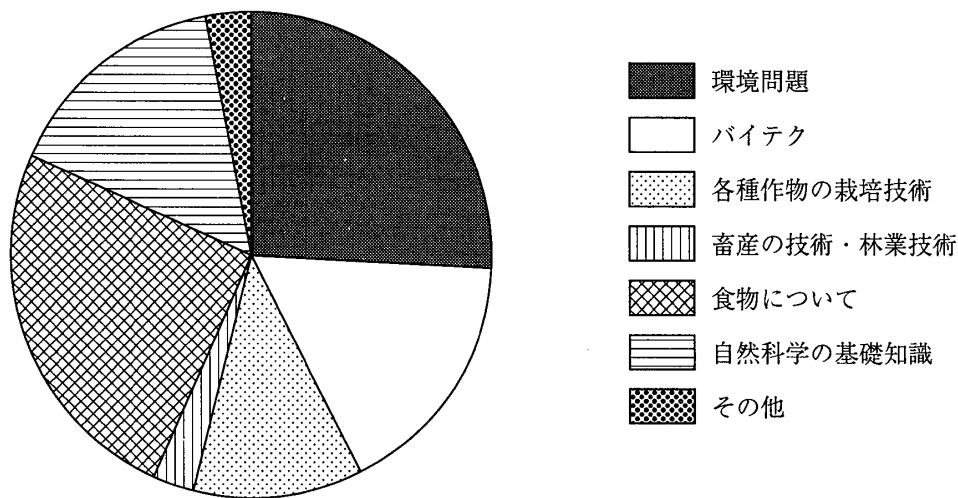


図5 今後のラジオ講座に希望する科目

今後の開講を検討すべきであると考える。

なお自由記載の中から代表的な例を示す。

- \*身近な問題で役に立った（例えば・お焼き）
- \*専門技術＋経済＋生活を織りまぜたようなものを
- \*作家の文学作品の解説
- \*NHKでやっていない語学の講座を希望
- \*生活の関係をもっと多く取り上げて欲しい
- \*食文化に関して続けて欲しい
- \*家庭の主婦を対象とした講座が楽しみで、次回を待ち望む
- \*その他の希望テーマの具体例

地球環境問題 3件

環境問題と人間の生き方

エイズ

10年後の科学の進歩

食品の安全性

## 2) 科目構成について

今回は信州の特異的な伝統的な食について取り上げ、読む教材、聞く教材はいずれも各回毎に異なる食物を取り上げて、それぞれ独立して記述し、講義した。

その結果、一回の講義がテーマあるいは講師により、ある場合には盛りだくさんになりすぎたり、逆に平易になりすぎたりしたことは否めない。それらに対して、受講者の教育程度、専門知識の有無により賛否両論があった。

図6に示すような科目について、さらに詳しく知りたいとの希望が寄せられている。

全ての話題についてその歴史的背景、科学的根拠などを述べると一年の放送として成り立つだけの内容を持つものとしても構成可能である。そのどちらがよいかについては現在なお検

討中である。

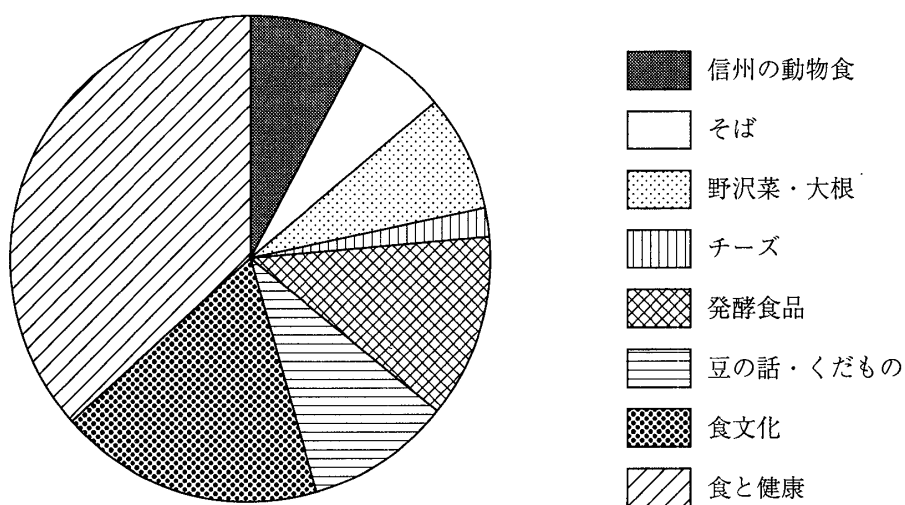


図6 さらに詳しく知りたい科目

### 3) 読む教材・聞く教材の比較について

(1) 読む教材は市販の出版物とし、読者対象としては高等学校卒業程度で理解可能なものとした。従って専門用語は出来る限り少なくし、場合によっては専門用語は別に解説をつけた。また、図・写真等を多くし、数字の多い表を避けるようにした。

#### (2) 聞く教材の作成方法とその成果

講師自身が約42～43分のシナリオを作成した。シナリオ作成にあたってアナウンサーとの対話形式とし、重要な点あるいは難解な点に関してはアナウンサーによる質問、あるいはまとめとしての繰り返しによって理解度を深めるように工夫した。また、出来る限り専門用語あるいは英語の表現をさけ、さらに漢字で読む場合には理解が容易であるが、耳で聞いた場合に判断しにくい言葉には注意した。シナリオは収録前一週間前までには放送局の制作担当者へ提出し、アナウンサーにも予備知識を持ってもらうようにした。

また、科目の構成順はテキストの構成順にこだわらず、むしろ食べ物の季節感を重視し、また、テーマの流れに沿って食文化の成立要因としての自然環境について考え、あるいは現在の食品の流通機構や農業事情が食文化に与える影響を理解され易いように組み立てた。さらに、各回の内容に関しては必ずしもテキストにこだわらずに、その中の興味ある話題を中心に適当な部分に絞って作成した。

なお、アナウンサーとの対話形式だけではなく、2人の講師の対話形式の場合もあった。何れの方法が良かったかについての数量的な把握はされていないが、アナウンサーとの対話より講師陣の対話が好評であったようであった。

読む教材としての「長寿県信州の食を考える」に対する公開講座の受講生の読後感は図7に示すとおりで、面白かった、わかりやすかったとの率が高かった。また、受講生以外の信大農学部学生からも読み易いと好評であった。

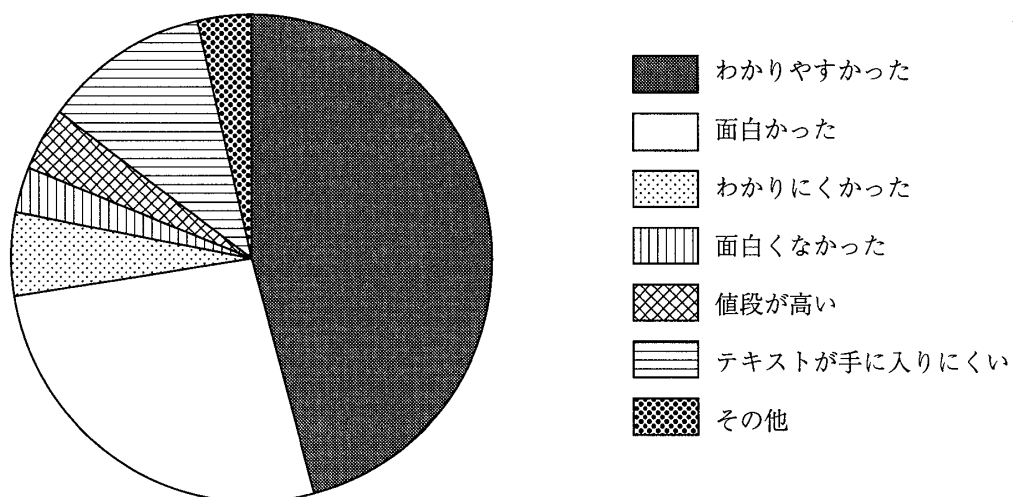


図7 テキストについての感想等

図8に示されるように、受講生が講座を聞いた回数は必ずしも多くはなかったが、図9にあるように、面白かったと感じた人の率が非常に多く、表現方法の工夫も評価されている。

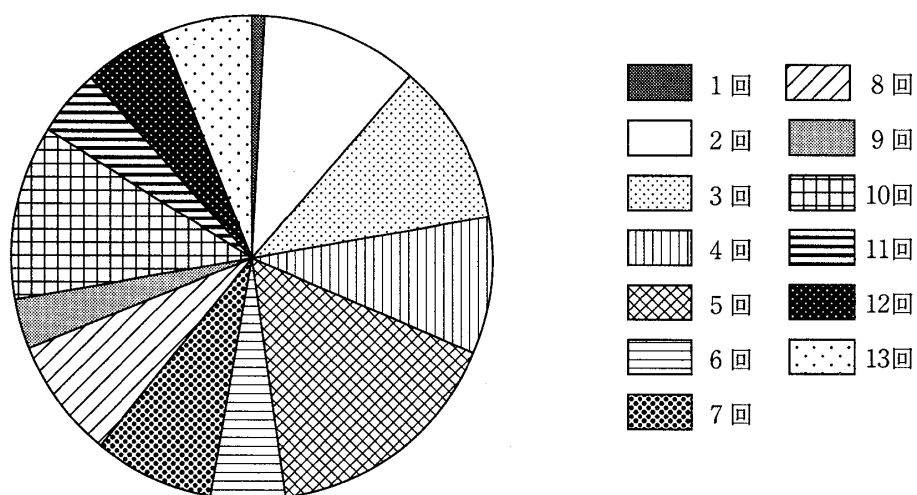


図8 講座を聞いた回数

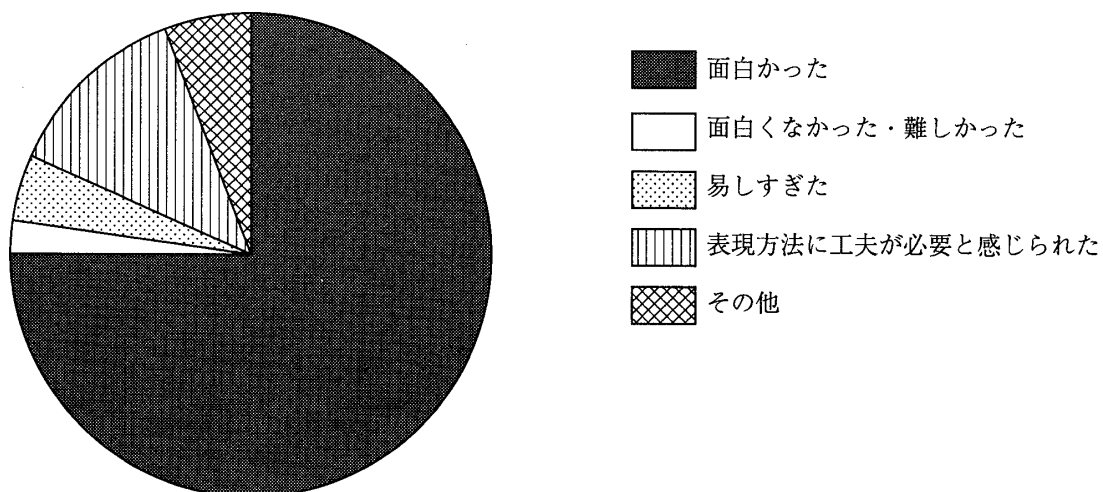


図9 講座を聞いた感想

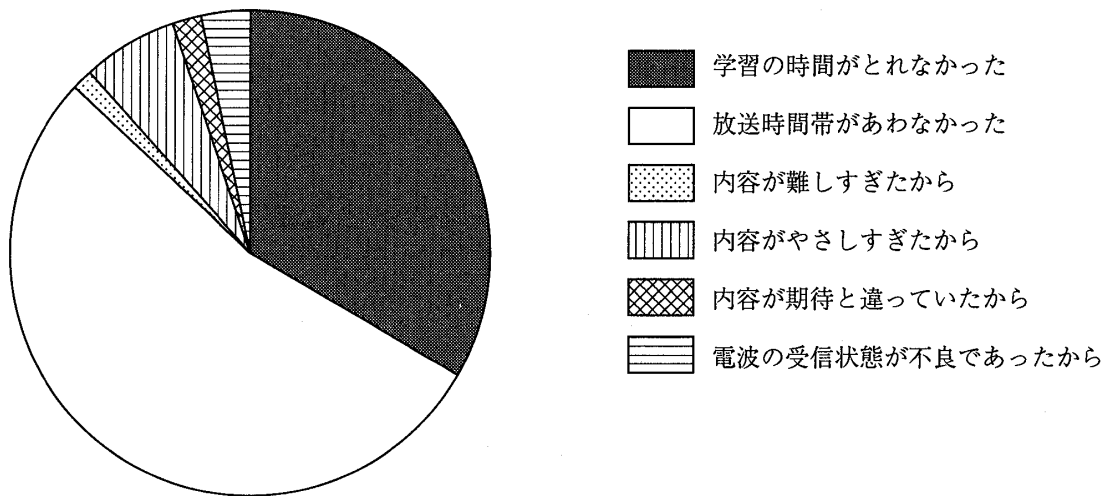


図10 聞かなかった理由

したがって、読む教材、聞く教材はともにその目的はおおむね果たし得たのではないかと考えられる。

しかし、テキストを読むだけで十分理解できたので聴かなかったとの受講生もあった。テキストがあまり丁寧すぎたり、易しく書かれすぎるのは問題かも知れないとも考えられる。一方、図11～図13に示すように、予習あるいは復習をする受講生の率がかかなり多いことからすると、読むテキストは、論理性、図・表のデータあるいはラジオでは表現できないような部分について詳しく記載し、聞く教材に関しては、その一部分についてトピック的に講義するのが効果的であるとも言えよう。もっとも、伝統のある文字文化の印刷出版物に限っても、その読者対象を想定し、テーマから内容・表現等を決めるにはかなりのリスクが存在すると言われている。放送のような新しい文化に対して、文字と放送の両者について、不特定多数の読者・視聴者を満足させようとするれば、むしろ一兎も得ない危険があるのではなからうか。その問題については後述する。

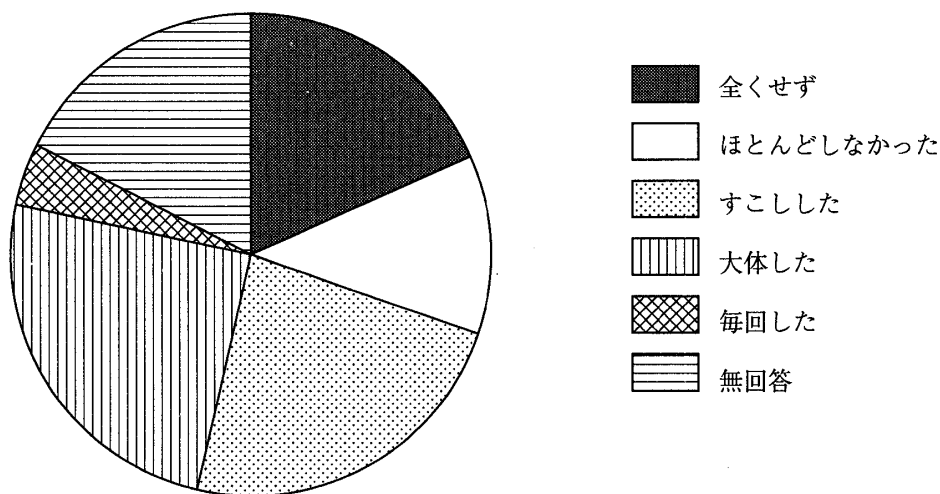


図11 予習の有無



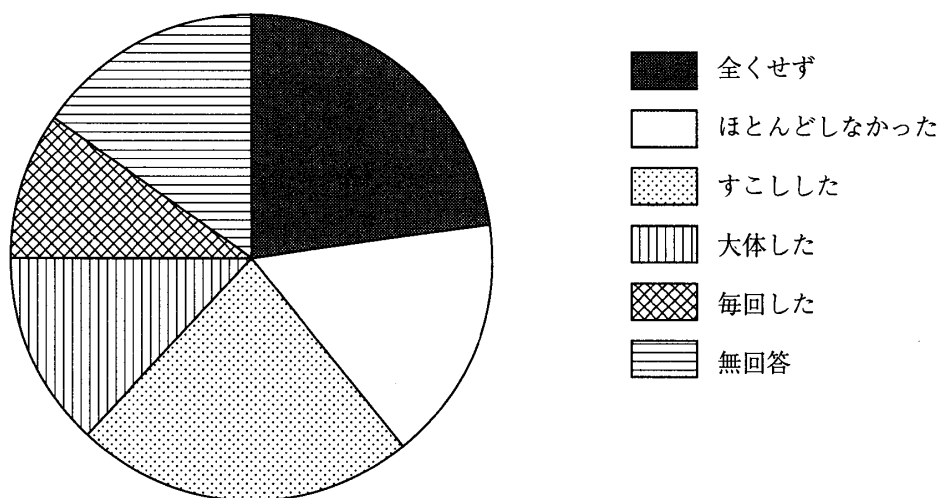


図12 受講時のメモの有無

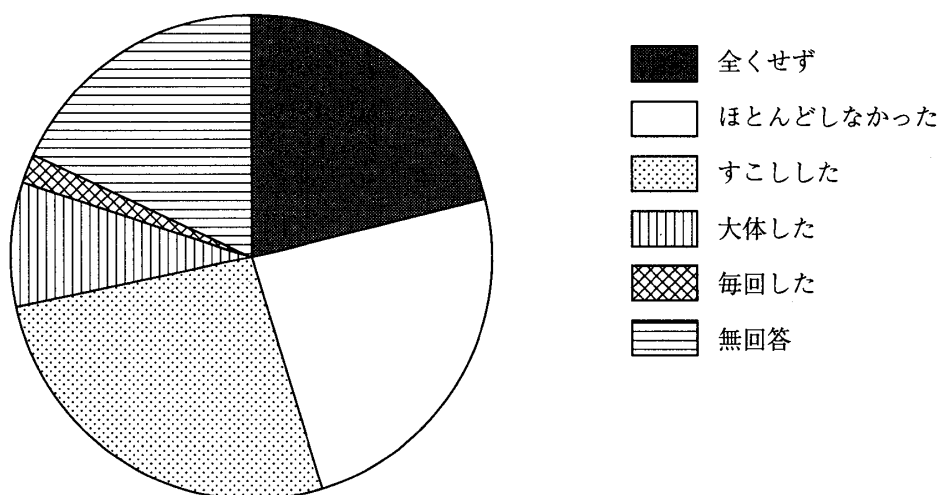


図13 受講後の復習の有無

なお、放送の場合には講師の話し方、声の質、アクセントなどが印象の違いとして大きな問題になることもまた改めて感じられた次第である。

自由記載の例：

- \* 読むテキストと放送の順序が整合性がなく、予習に困ったとの意見が何人かから出ている。  
NHKの教育テレビに慣れた人も、放送公開講座を高く評価しながらも、読む教材と聞く教材の順序の変更は予習との関係でわかりにくかったとしている。
- \* 読む教材に記載の無かった部分もあり、せめて簡単な項目だけでもテキストが欲しい。
- \* 講師の話し方やそのなめらかさにより印象が変わるので工夫されたい。

## 5) スクーリングの実感とその成果

スクーリングの基本方針は耳のみにたよるラジオ放送では伝え得なかったことを補うことを

最重点とした。そのためにスライド、ビデオ、板書、実物提示など視覚に訴える方法を重視した。結果としては極めて好評であった。

スクーリングはそれぞれ講師、テーマを変えて、県内各地で計5回実施した。スクーリングに対する満足度は大きかったようである。

会場の地域と開催回数をさらに増やして欲しいとの希望が多かった。長野県のような交通の便の良くないところではもっともな意見と sentir れるが、講師陣にとっての負担の大きさを考えると簡単には踏み切れない。現在検討中である。開催時期が寒かったこともかなり影響が大きく、会場のおおきさや暖房の準備状況などについては若干問題が残った。長野県のような地域ではスクーリングの開催時期はかなり重要な検討課題であろう。

また、多くの受講生から指摘を受けた点はスクーリングの開催に関して周知徹底に欠けた点である。開催通知については受講案内は勿論、ラジオ放送、有線放送、公民館案内、新聞報道等を利用したが、必ずしも十分ではなかったようである。案内に関してはラジオによるよりもテレビの放送の方が有効で、その利用をさらにすすめる必要があろう。

なお、スクーリングには放送利用の公開講座の受講者ではない人々もかなり出席し、大学への認識と共に今後の放送利用の大学公開講座への関心を高めたものと推測された。

自由記載の例：

- \*スクーリングでは質問に対する応答など非常に面白かった
- \*スリーリングの宣伝をもっと強力にやる必要あり
- \*スクーリングの場所を検討され、また、回数を増やして欲しい
- \*テキストと放送、スクーリングだけではなく受講者仲間の中で話し合いなど発展性のあるものにしたい

#### 6) 望ましいラジオ教材のあり方

今回も本学の例年に従い市販の出版物とした。出版社の意向もあり、かなり上述のように、ラジオ番組と本の章立てを同じにして欲しいとの意見もあった。予習をする人、復習をする人があることからすれば、より補完的な物であることを考えるべきであろう。

ただし、後述するように、ラジオの場合には何かをしながらと云う場合が多いことからしても、本を資料とし見ながら聞くような利用方法は差し控えるべきであろう。

### 4. 残された問題点

#### 1) 放送利用の大学公開講座の意義について（信州大学の場合）

信州大学は各学部が分散しており、学部主催あるいは地域主催の公開講座を開催しても距離的に出席できる人は限られてしまう。その点から見れば、本講座では図14に示すように非常に広い範囲の人々が受講したことになる、極めて有効な手段であったと考えても良いであろう。

生涯教育としての放送公開講座に対する期待も大きい。ただし、地域開催の講演会などへの大学教官の参加、あるいは大学の見学など、やはり顔の見える関係あるいは質疑応答の出来る関係に対する希望の方がさらに強いのが現状であろう。

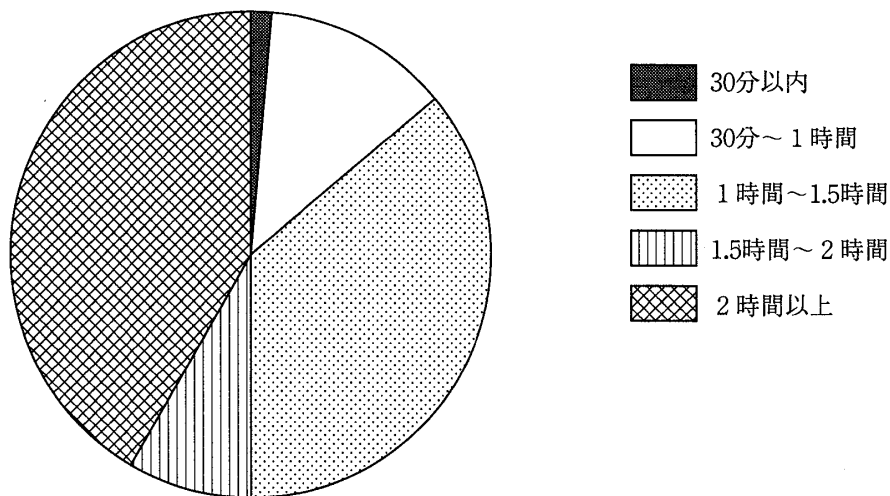


図14 受講生の居住地域から信大農学部までの所要時間

従来、農学部では地域主催の講演会などの講師として積極的に参加することに勤めてきたが、その地域や聴衆が限られてしまい、また、テーマ決定の独自性が欠けるのが問題であった。地域住民の意見を取り入れ、しかも大学の教育・研究を両立させるためには、まずスクーリングの方法の検討が不可欠とは云え、この放送利用の方法は地域住民、受講生からの要望に答える方法として十分生かし得るものと考えられる。

自由記載の例：

- \* 今後も続けて欲しい
- \* 良い内容の講義
- \* 放送、スクーリングの録音・録画の入手希望
- \* 録音テープ送付の御礼
- \* 見学会の希望
- \* 学内見学・・・研究の紹介
- \* 高等学校の教育のレベルアップに助力を
- \* 信州生まれでない人から信州を知るために良い・・・続けて欲しい
- \* 再放送を希望
- \* 公開講座の存在を知らない人がかなり多い
- \* 宣伝をもっとして欲しい
- \* 若ければ農学部で勉強したいと感じた
- \* 環境問題や農業技術に関する幅広い考え方を地元自治体等へ参画して提言されたい。
- \* 寒さで困った

## 2) 音声メディアの問題点

上述したように、地域住民の大学公開放送講座に対する期待は大きくまた今回のラジオ講座も一応の目的は達したものと推測されるが、音声のみのメディアの限界も痛感させられた。

同じテーマをテレビで放送して欲しい希望者が多かったこと、スクーリングで視覚に訴える講義が好評であったこと等からして、ラジオと云う音声のみに頼る講義が現在ではかなり日常性を失っているのではないかと改めて考えさせられた次第である。

例えば、主婦が家事労働をしながらでも聞き得るとも予測されたが、上述したように日曜日の7時と云う時間が不適當という回答が多かった。ことに、食事の後片付けを担当している年齢層に多いのが目だった。また、女性のその他の年齢層あるいは男性にも多く認められ、年齢層に無関係に出てくる部分に関しては、家族団らんの時間帯である事からして工夫の余地がある。本講座の意図は家族が共に聞き、話し合いの材料とする事にあったが、その意図の説明を十分に行えば解決する点も残されているのかも知れない。

ラジオで講座を聞けるのが簡単でよいとの意見も見られたが、図15～図18に示すのは、ラジオと日常生活の関係に関する設問の結果であるが、「何かをしながら聞く」というのが通常である事を示している。ラジオ講座はその点を充分考慮する必要があると考える。

したがって、講座のテーマや内容を「ながら」でも聴き得るものと、かなりの集中度を必要とするものに明確に区別し、それを受講者に明示すれば如何なものだろうか？

さらに、読む印刷教材と聞く教材の関係を検討する事がさらに必要とされよう。本学のように読む教材を市販にする場合、読者層も広くなり、それなりのメリットはあるが、出版社の意向に左右される面も多く、放送と出版の関係をうまく両立させるためには、本学でも大学独自の出版が可能な方法の検討も必要であろう。DTPの技術が日々進歩する中で、十分可能な問題と考えられる。

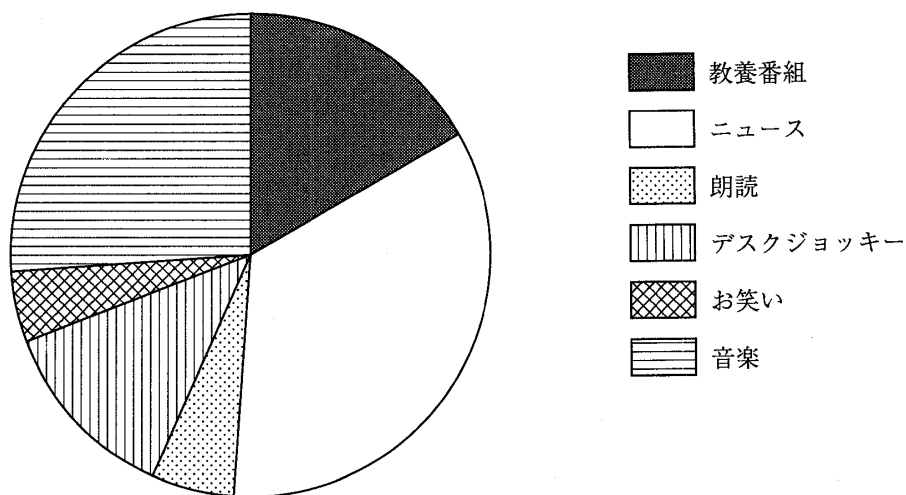


図15 ラジオで良く聞く番組の種類

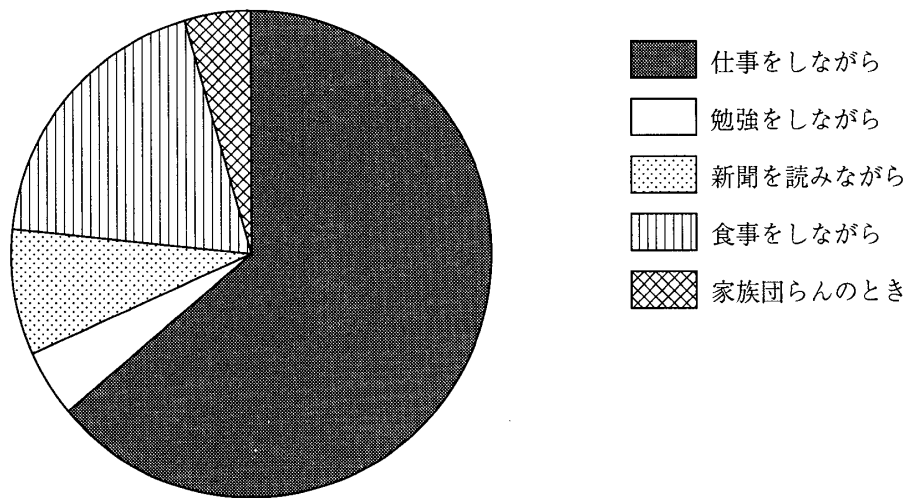


図16 ラジオを聞く時

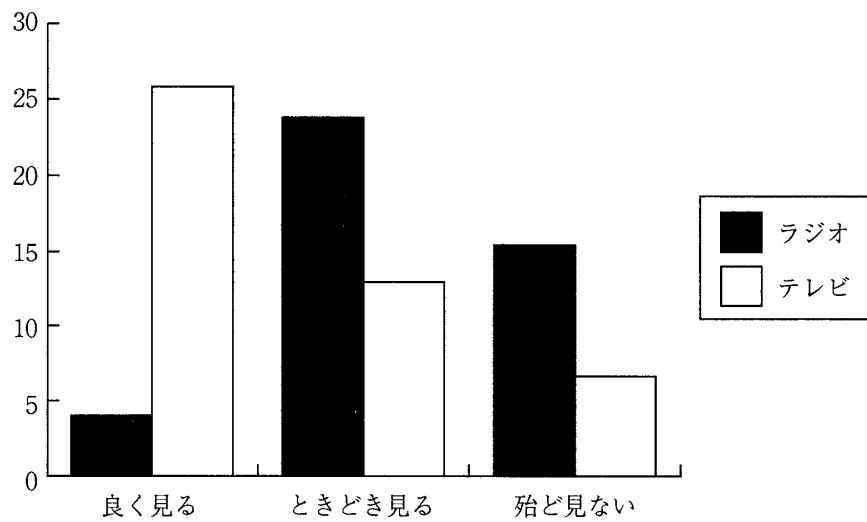


図17 ラジオ、テレビの番組欄を見るか

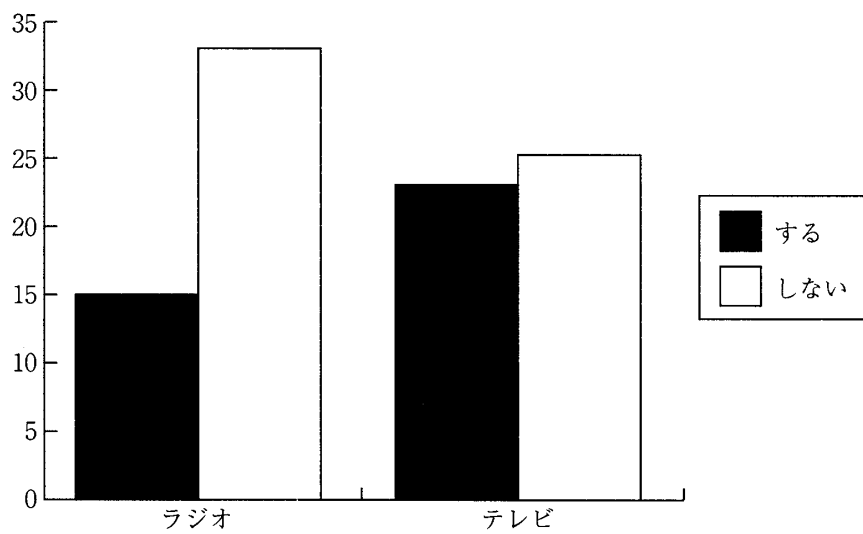


図18 ラジオ、テレビの録音・録画をよくするか

#### 自由記載の例

- \*全国ネットに流したら
- \*テレビ希望
- \*時間帯が問題で聞けなかった
- \*自宅で聞けるから良い

#### ま と め：

大学の放送公開講座に対する期待は大きいのは確かであるが、また、何らかの形で大学との交流が求められているのであるが、それを可能にするためには大学内の組織と放送関係者のさらなる積極的な交流が求められよう。

例えば信大の場合、各学部が交代で講座を担当してきたのが現状で、その経験を伝える方法や機会がない。組織の充実と放送メディアを利用した教育方法そのものを研究する分野があれば非常に有効と考えられる。さらに、かつて検討されその後立ち消えになっている信大出版局の設立にも共に再度検討されるべきではなかろうか。

また、受講生からの要望もあったが、地域の大学の講座を全国ネットで放送することにより、さらに有効な生涯教育の手段とする事になろう。

さらに、生涯教育・生涯学習は単なる送り手と受け手としての講師・受講生の分離があるところに成立するものではない事は、筆者もこれに参加した受講生も共通の意見である。しかも、アンケートから、高年齢層が「ワープロ・コンピューターは年をとってからでも楽しめる」と答えている点も考慮すれば、放送利用の大学公開講座の方法も、ラジオ、テレビ、スクーリングと云う方法のみではない通信方法を検討すべきではなかろうか。

付記

(アンケートの概要：回答事項の細目は省略した)

## アンケート (A)

スクーリング 第1回と第4回に実施

### 放送メディアについてのアンケート

1. あなたの年齢は？
2. 性別は？
3. あなたのご職業は？
  - 1) 農業
  - 2) 勤め人
  - 3) 専業主婦
  - 4) 学生
  - 5) 無職
4. この講演会があることを何で知りましたか
  - 1) 放送公開講座の受講案内
  - 2) 有線放送
  - 3) 友達や近所の人から
5. 今回の講演会についておたずねします  
(2～3の回答可)
  - 1) 面白かった
  - 2) 面白くなかった
  - 3) 難しかった
  - 4) 易しかった
  - 5) もっと学問的な話を期待していた
  - 6) 学問的なことを易しく説明されて良かった
  - 7) ラジオの講義より面白かった
  - 8) ラジオの講義よりわかりにくかった
  - 9) 講師の表情が見えて理解しやすい
  - 10) 板書やスライドで補われるから理解し易い
6. 貴方の生活の中でのテレビ・ラジオについておたずねします
  - 1) テレビ・ラジオをお持ちですか
  - 2) テレビ・ラジオを録画・録音されますか

7. ラジオについておたずねします  
ラジオを聞くことがありますか  
1) よく聞く  
2) ときどき聞く  
3) 全く聞かない
8. 7番で1)、2)と答えた人は次の問に答えて下さい  
1) ラジオを聞く時間帯は何時ですか(複数回答可)  
2) どの様なときにラジオを聞きますか  
3) どの様な場所で聞きますか  
4) どの様な番組をよく聞きますか  
5) 新聞のラジオ番組欄を見ますか  
①良くみる  
②ときどき見る  
③ほとんど見ない  
6) 新聞のテレビ番組欄を見ますか  
①良くみる  
②ときどき見る  
③ほとんど見ない
9. ラジオを聞かないと答えた人は次の質問に答えてください  
1) ラジオを持っていない  
2) ラジオは面白くない
10. テレビを見るのとラジオを聞くのとのどちらの機会が多いですか  
1) テレビが多い  
2) ラジオが多い  
3) どちらも関心がない

次は信州大学放送公開講座についておたずねします

11. 信州大学放送公開講座をご存知でしたか? 知っていた方は何で知りましたか
12. ラジオで放送公開講座「食を考える」を聞かれましたか
13. ラジオ放送を聞かれたご感想は如何でしたか(複数の選択可)



14. 放送公開講座のテキスト「食を考える」をお読みにになりましたか（予習・復習等）

15. テキストについてのご感想をお聞かせ下さい

16. とくに印象に残った部分があればお書き下さい

「生涯教育」についておたずねします

17. 学校を卒業してからも勉強をしたいと思いませんか（希望の有無とその方法）

18. 生涯教育という言葉から連想するのは次のうちどれですか

19. 最近ワープロやコンピューター通信による生涯教育が取り上げられるようになってきましたが、そのことについてどの様にお考えになりますか

20. 放送講座や講演会で次のどの様なテーマが聞きたいですか

アンケート（B）

放送公開講座終了後に実施したもの

信州大学放送公開講座ラジオ部門  
「信州の食を考える」について

問1．あなたの性別は？

問2．あなたの年齢は？

問3．あなたのご職業についてお答え下さい

問4．あなたの住居地区についてお答え下さい

問5．放送公開講座「食を考える」についてのご意見をお聞かせ下さい

- 1．信州大学放送公開講座を何で知りましたか
- 2．放送時間の日曜日午後7時からはどうですか
- 3．日曜日以外がよいとされた方はどの曜日が良いでしょうか（　　曜日がよい）
- 4．時間帯が不适当とされた方は具体的にどの時間がよいでしょうか
- 5．ラジオで放送公開講座「食を考える」を聞かれましたか。聞かれた回数をお答え下さい
- 6．ラジオ放送を聞かれたご感想は如何でしたか
- 7．とくに興味をもたれたものがあれば具体的にお書き下さい

問6．放送公開講座のテキスト「長寿県信州」についておたずねします

- 1．お読みになりましたか
- 2．テキストについての一般的なご感想をお聞かせ下さい
- 3．とくに印象に残った部分があればお書き下さい
- 4．もっと詳しく知りたいテーマがありますか。あれば具体的にお書き下さい

問7．ラジオ公開講座のスクーリングについておたずねします

- 1．何回ご出席になりましたか（　　回）
- 2．出席された会場はどこでしたか
- 3．出席されなかった理由は？
- 4．内容についてのご感想をお伺いいたします
- 5．スクーリングについて何かご意見があればお書き下さい

問8．今後信州大学農学部が放送公開講座を行うとすればどのようなテーマをご希望になりますか

- 1) 環境問題
- 2) バイテク
- 3) 各種作物の栽培技術（例えば            ）
- 4) 畜産の技術
- 5) 林業技術
- 6) 食物について
- 7) 自然科学の基礎知識
- 8) その他（具体的にお書き下さい）

問9. 信州大学と地域社会の交流をもっと深めるにはどのような方法が良いでしょうか。良いと思われるものから順位をつけて3つお答え下さい

- 1) 放送公開講座の拡充（            ）
- 2) 大学の講義の聴講生制度の充実（            ）
- 3) 見学会（            ）
- 4) さまざまな公開講座の開催（            ）
- 5) 社会人の入学制度の確立（            ）
- 6) 大学主催の講演会の開催（            ）
- 7) 地域主催の講演会への大学スタッフの参加（            ）
- 8) 大学スタッフと社会人の研究会・交流会の開催（            ）
- 9) その他（具体的にご記入下さい）

問10. 信州大学へのご希望やご提言がありましたらお書き下さい